

稲作管理特報

令和2年7月10日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

コシヒカリの生育は、平年より早く推移しており、**幼穂形成期は7月12日頃**と見込まれます。

ほ場ごとに生育が異なるため、穂肥は、草丈・葉色・幼穂長を確認して的確に施用しましょう。

【コシヒカリの生育状況（みな穂管内）】

	田植日	6月30日					7月7日					幼穂形成期
		草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	草丈 cm	茎数		葉齢	葉色	
			本/株	本/m ²				本/株	本/m ²			
R02	5/12	57.9	24.6	522	11.1	4.2	67.5	24.2	513	11.8	4.1	7/12 (予想)
R01	5/10	53.0	27.6	561	11.0	4.2	65.2	25.4	515	11.9	4.2	7/11
平年	5/12	54.0	24.5	483	10.7	4.3	64.2	23.4	462	11.5	4.1	7/13

1. コシヒカリの穂肥・・・1回目は慎重に！ 2回目は確実に！

【幼穂形成期の生育量の目安】

幼穂2ミリ確認時（7月12日頃）		
草丈	茎数	葉色
72 cm	470本/m ²	3.8

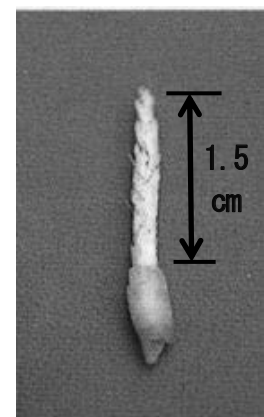
【分施肥系（基肥206号）の場合】

- 1回目の穂肥は、必ずほ場ごとに幼穂長・草丈・葉色を確認して施用しましょう。
- 2回目の穂肥は、粒の肥大を良くし、米の品質低下を防ぐ効果があるため、確実に施用しましょう。

<穂肥施用時の生育量の目安>

（幼穂形成期：7月12日頃 出穂期：8月3日頃）

穂肥	第1回目	第2回目
草丈	82 cm	-
施用時	幼穂長	1.5 cm
	葉色	3.6
施肥時期	7月20日～21日頃	1回目の7日後
肥料名	追肥3号	
施肥量	10kg/10a	12kg/10a



1回目穂肥施用時の幼穂

※1回目穂肥時の葉色が「3.8～4.0」のほ場では、施用時期を2～3日遅くするか、施肥量を7割程度に減らす。

※「4.0」より濃いほ場では、1回目は施用しない。

穂肥は、ほ場ごとに生育を確認して、慎重に行いましょう！

【基肥一発肥料の場合】

- 穂揃期の葉色が淡いと、登熟期が高温になった場合、収量や品質が低下する恐れがあります。
- 出穂10日前（7月24日頃）に、葉色が4.0（洪積土3.8）未満の場合は、追肥3号で5～7kg/10a施用しましょう。

2. これからの水管理・・・高温でも夏バテしない水管理！

①出穂期まで：飽水管理を徹底し、稲の活力維持に努めましょう。

※飽水管理：落水期間を短くし、足跡に水が残る程度のヒタヒタ状態を保つ。ただし、4日以上、水が滞っていたら落水する。

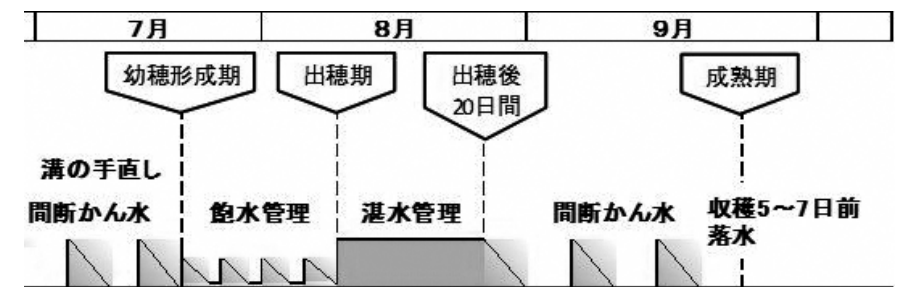
②出穂後：田面が出ない程度に水を張り、20日間の湛水管理を行いましょう。

・水をためっぱなしにせず、定期的に水の入替えを行う。
ただし、かけ流しは絶対に行わない。

（例）5日に一回程度入替え・・・地域の用水事情に応じて実施する

③湛水管理終了後～刈取り7日前まで：間断かん水で、活力維持に努めましょう。

○今後の水管理



3. 雑草地のカメムシ対策・・・出穂前に住みかとなる雑草地をなくそう！

- (1) 草刈り時の農作業事故や熱中症に注意しましょう。
- (2) 一斉草刈り後は、雑草の穂が出ないように管理しましょう。



4. 病虫害防除・・・一斉防除で効果を高めましょう！

【コシヒカリの一斉防除予定 ※生育に合わせて、後日、防除特報を発行します】

防除月日	農薬名	散布量
【1回目】7月30日～8月1日頃 (走り穂)	ブラシントレバリダ粉剤DL (いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類、ニカメイチュウ)	4kg/10a
【2回目】8月7日～8月9日頃 (穂揃期)	ラブサイドキラップ粉剤DL (いもち病、ウンカ類、カメムシ類)	4kg/10a

※無人ヘリコプターでの防除をご利用の方には、後日折込みチラシなどで別途ご案内します。